

東京大学大学院総合文化研究科・教養学部主催

汪婉中国大使夫人学術講演会のお知らせ

このたび、本学大学院総合文化研究科で博士学位を取得し、現在中国大使夫人として外交の場でご活躍されている汪婉氏をお迎えして、駒場キャンパスで講演会を開催いたします。ご専門の近代日中関係史をふまえつつ、外交官としての活動の一端を紹介いただきながら、緊張の度を加える日中両国の関係をめぐり、未来志向の新たな関係を構築していく可能性を語っていただきます。本学の学生・教職員の多数の参加を歓迎いたします。

2013年10月

大学院総合文化研究科・教養学部

記

日時：2013年10月22日（火） 16:30-18:00

場所：駒場キャンパス I 21KOMCEE レクチャーホール

題目：中日関係を見つめて——研究と実践の両面から

言語：日本語

対象：本学の学生および教職員

申込：事前登録制。氏名（ふりがな）、学生証番号、所属（前期課程学生は科類、後期課程学生は学部・学科、大学院生は研究科・専攻）を記載し、lecture1022@adm.c.u-tokyo.ac.jp までお申し込みください。原則、当日受付の入場はお断りいたします。

共催：東京大学社会科学研究所 現代中国研究拠点

【講演者略歴】 汪婉（おう・えん, Wang wan） 中国北京市生まれ。1996 年東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了，博士（学術）。中国社会科学院近代史研究所研究員，上海華東師範大学歴史学部兼任教授。2010 年 4 月より，程永華中国駐箚日本大使夫人，友好交流部参事官として東京に駐在。著書『清末中国対日教育視察の研究』（汲古書院，1998 年）など。

【講演要旨】 中国が改革開放政策を進める 1980 年代後半，折からの日本留学ブームの中で来日した多くの中国人留学生が，「近代化と留学交流の意義」に大きな関心を持ち，清朝末期＝明治期における留学生の往来，アジアの近代化プロセスに対して辛亥革命がもった思想的価値・意義をテーマにした研究を進め，多くの成果を生み出した。講演者は，19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて，中国から日本に諸制度の視察に訪れた人々の事蹟と記録に基づき，彼らの視察成果が科挙廃止，近代的学制の新設をもたらした経緯を明らかにした。講演では，清末のみならず，中華民国の時期を含めて，中国における「国民国家」の建設，あるいは「国民形成」のための教育改革とは，いかなるものであったかを検討したい。

さらに，1972 年の国交正常化以来，中日両国関係が最も困難な局面にある今日，両国の健全かつ安定した関係を保つには何が必要か，両国民の相互理解と相互尊重をいかにして促進してゆくべきか，大使館友好交流部の仕事に携わる経験から考えてみたい。

【本件に関する問い合わせ先】

大学院総合文化研究科・教養学部

国際研究協力室(101 号館 26A)

Tel: 03-5454-6827

E-mail:lecture1022@adm.c.u-tokyo.ac.jp